

### 1. はじめに

#### 本委員会の狙い)

- 地球温暖化・気候変動問題は全世界共通の課題であり、わが国としては、エネルギー政策の方向性を早急に定め、地球規模の課題解決のために自ら行動する責任がある。
- 本委員会では、わが国が継続的な成長と持続可能な社会づくりの同時実現に挑戦し続けるため環境とエネルギーの視点から、どのように考え、行動していくべきか示すことを狙いとしている。

#### 中間報告書の位置付け)

- 本中間報告書では、①エネルギーを軸に考える当面 (短期) の取り組み・考え方、②エネルギーを軸に考える中長期の目指すべき社会に向けた課題、③地球温暖化・気候変動問題に関する中長期課題と方向性、を幅広く捉え整理した。今後はここから焦点を絞った議論を行う。

### 2 環境・エネルギーに対する基本となる考え方 - これまでの本会における考え方の整理 -

東日本大震災以降、環境・エネルギーに対する考え方が大きく変化している中、本会として発信してきた提言等を以下に整理し、基本的な考え方として示す。

#### 【1】2011年度 低炭素社会づくり委員会

- 報告書 需要側のイノベーションで実現する低炭素社会づくり  
～『ハード』『ソフト』『マインド』を軸として～

わが国の低炭素社会の実現により、そこで培った『ハード』『ソフト』を世界に提供することができるとともに、さらに我々の『マインド』の変革をすることで、すべての面を活かした低炭素社会が、わが国の成長の基盤となりえることを発表。

#### 【2】2011年度 電力と発送配電のあり方研究会

- 提言 需要者の視点で電力システムのイノベーションを

電力供給においては、需要側の行動変革によるイノベーションが起こる競争環境を築き、多数の供給者の中から需要側が選択する中で、安定供給を求める需要者のニーズが満たされるような制度設計であるべきとの考えの下、望ましい電力システムの姿を提言。

#### 【3】2012年度 環境・エネルギー委員会

- パブリックコメント 「エネルギー 環境に関する選択肢」に対する意見

政府が示した「エネルギー 環境に関する選択肢」に対する意見として、パブリックコメントを発表。

- (1) S+3Eをすべて視野に入れ、時間軸を考慮した対応が必要
- (2) 技術革新の動向を踏まえた柔軟なエネルギー政策の検証・見直しが必要
- (3) 原発の技術・人材を確保しつつ、原子力安全分野での積極外交による国際貢献の展開を
- (4) 地球温暖化対策も十分に視野に入れた成長の道筋を

### 3 エネルギーを軸に考える当面 (短期) の取り組み・考え方

長期の地球温暖化・気候変動対策を見据えつつ、わが国の安定的な成長のための当面の課題として、安全性、コスト、環境配慮を前提にした、電力の安定供給をいかに確保するかが最優先課題であり、これを主眼としたエネルギー政策に対する考え方を以下に示す。

#### 【当面のエネルギー政策の考え方】

- 短期の電力供給のあり方
  - 電力コスト低減のため、火力燃料の調達先の多様化やより低廉な調達を、国を挙げて取り組むべき
  - 当面の電力安定化のため、新規基準により安全性が確認された原発を速やかに再稼働すべき
  - 同時に、多様な電源を活用できる新たな電力システムの構築を遅滞なく進めるべき
  - 安全保障の確保・自給率向上の面から、国産エネルギー資源採取技術の確立を急ぐべき
- 需要サイトのあり方
  - 自発的な節電・省エネ行動をサポートする情報発信、取り組みを国や企業において行うべき
  - 省エネ推進と節電促進のために必要な、規制緩和・支援策の拡充を国の主導で行うべき
- 原子力発電のあり方
  - 新規基準に基づく安全性の確認を着実かつ迅速に進めるため、検査体制の強化を図るべき
  - 再稼働と同時に、使用済み核燃料処理に対する国民の合意を得られるようにすべく、処理方法に対する技術的な検討と合意形成のための取り組みを進めるべき
  - 廃炉についてはその技術の確立も含め、国際協力も視野に入れながら国が責任を持って対応すべき

### 4 エネルギーを軸に考える中長期の目指す社会に向けて

中長期的な「省エネ社会」「低炭素社会」を重要な軸の一つとし、その実現のステップを具体的に考えるため、「エネルギーを創エネルギー 創エネ」「蓄エネルギー 蓄エネ」「省エネルギー 省エネ」「熱エネルギー 熱エネ」の4つのキーワードで分類し、将来の目指すべき社会に向けた方向性を示す。

#### 【エネルギーの4つのキーワード】

##### 創エネルギー

わが国の将来のエネルギーミックスを形成しうる新たな国産エネルギーとして創出されるもの。わが国のエネルギー自給率向上・安全保障にも欠かせない要素。

##### 蓄エネルギー

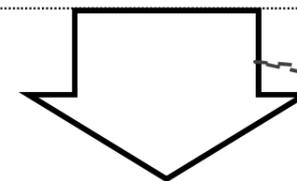
再生可能エネルギーの導入拡大に伴う電力出力変動の抑制と余剰電力の貯蔵されるもの。

##### 省エネルギー

主に需要側におけるエネルギー消費の削減とエネルギー使用の効率化によるもの。

##### 熱エネルギー

創エネ、蓄エネ、省エネの中でも、特に熱として活用可能なもの。  
電力だけでなく、エネルギーとしての「熱」の活用を拡大すべき。



S+3Eを基本に考え、  
将来の可能性については柔軟に

#### 【中長期の目指すべき方向性】

- 中長期におけるエネルギー政策/エネルギー使用のあるべき姿を柔軟に考えるとともに、その実現のため創エネ 蓄エネ 省エネ 熱エネに重心を置いた新たな技術や制度の展開を図るべき
- エネルギー供給側と需要側のシステムの変革により、世界最高レベルの効率的なエネルギー使用が可能な技術開発、新しいエネルギー社会の構築を推進すべき
- これにより、エネルギーの多様性と同時に安全保障の確保を実現するとともに、この取り組みを世界に広げることが可能
- わが国の新たなエネルギーシステム全体を海外へ展開することは、わが国の経済成長に資するものであると同時に、世界の大きな課題である「地球温暖化・気候変動」へも貢献が可能
- 最新の核エネルギーを利用した、より一層安全な原子力発電の技術開発を産官学一体となって進め、エネルギーの確保だけでなく、その技術、人材の育成を推進するべき

### 5 地球温暖化対策に対する考え方

#### 【短期的な課題】

- 国内目標に対する考え方 現在・前提条件付き2020年▲25%)
- 新たな国際的な枠組みに対する考え方
- 二国間オフセット・クレジットメカニズム

#### 【長期的な考え方】

- 今後の継続検討項目として
- 地球温暖化対策に大きく貢献する技術革新の促進
  - 世界に対する日本の主体的役割・貢献

これらの課題は  
今後検討実施

### 6 今後の委員会活動に向けて

環境とエネルギーの視点から、持続可能で成長を続ける姿を深掘りするため、主に以下を重点課題として活動を継続する。

- 中長期的エネルギーのあり方と目指すべき社会のあり方
- 地球温暖化対策の課題 (短・中長期) とその解決に向けた方向性
- 当面のエネルギー政策への意見 (随時発信)